

1.開催された日時 平成 29 年 4 月 26 日 (水) 17:00 – 17:30

2.開催された場所 Web会議 (Google Hangout) で実施 (参考資料参照)

3.理事総数及び定足数

総数 20 名 定足数 10 名

4.出席理事数 15 名

(出席) (接続ポイント1: 北大・松島研究室) 松島俊也、勝 義直  
(接続ポイント2: 山形大) 渡辺明彦  
(接続ポイント3: 東北大) 小金沢雅之  
(接続ポイント4: 東大・岡研究室) 岡 良隆、筒井和義、阿形清和、吉田 学  
(接続ポイント5: 新潟大) 安東宏徳  
(接続ポイント6: 信州大) 浅見崇比呂  
(接続ポイント7: 阪大・志賀研究室) 西田宏記、志賀向子  
(接続ポイント8: 琉球大) 広瀬裕一  
(接続ポイント9: 広島大) 植木達也  
(接続ポイント (電話) : 産総研) 深津武馬

(欠席) 竹井祥郎、松田浩平、飯田 弘、豊田ふみよ、浮穴和義

(監事出席) (接続ポイント 4: 東大・岡研究室) 武田洋幸

(接続ポイント 10: 京都大) 沼田英治

会議風景は参考資料 1 に示す。

理事出席者 15 名、監事 2 名の出席を得て、理事会は成立となった。議長は、岡会長。

議事録署名人は、定款 35 条 2 項により、岡会長、武田監事、沼田監事。

5.報告事項

1) 各理事の活動報告

2-4月期の活動について、事前に提出された書面での報告 (添付資料1) を確認した。

2) ZDW 委員会報告 (広瀬理事)

現在 virtual issue をどうするか議論行っている。委員会としての暫定案は添付資料 2 に示す。例えば、現在は virtual issue の対象は ZS 掲載論文だが、将来的には ZL 掲載論文にも広げたいと考えている。今のところ ZDW 委員会が virtual issue の企画・編集を担当しているが、将来的には、会員から virtual issue editor を公募する事も考えている。もう少し突っ込んだ内容を 6 月の第 6 回理事会で議論する予定。なお、virtual issue の現状に関して実際に web ページにアクセスし、どのような形になっているかを確認した。

3) その他

岡会長より：学会賞奨励賞応募について今年は例年になく少なく、今後対応を考えていく必要があることがコメントされた。

永井事務局長より：9月の富山大会では大会前日に各種委員会を開催予定。委員長の交代時期でもあるので、各理事は統括している委員会メンバーにその旨を知らせておいて欲しい旨の連絡があった。

岡会長より：前回・今回 Web 理事会は GH の拠点数 10 カ所という制限があったが、別回線での参加や音声のみの参加も可能であるので、今後は拠点数に縛られず、各理事が移動することなく Web 会議を開催できるようにしたいとの意見があった。

## 6. 審議事項

### 1) 議事録の承認

メール回覧で回覧した第4回理事会議事録について、原案通り承認された。

今後は、理事会の冒頭で前回の議事録の承認を行う事とした。

### 2) Zoo-Diversity Web のコンテンツ収集について（広瀬理事）

現在 ZDW では ZS 掲載論文だけでなく、ZL 掲載論文に関してもデータベースへの登録作業を始めている。委員会としては、さらに ZS の前身である動物学雑誌や動物学彙報も取り込む事を計画している。しかしこのためには相応の経費が必要となるため、本件に関する科研費申請（今年の 11 月申請）を行いたい旨、提案があった。6月の理事会にて詳しい審議を行うこととした。

・次回（2016 年度第 6 回理事会）は 6 月 2 日 13 時より貸会議室プラザ八重洲北口にて。

平成 29 年 月 日

上記の内容で相違ないことを証するため、ここに記名押印をする。

議 長 岡 良隆

議事録署名人 武田 洋幸

議事録署名人 沼田 英治

## 各理事活動報告（2017年2月～4月）

## ○会長活動報告（2017年2月-4月）（岡理事）

1. 永井事務局長および倉谷 ZL 編集主幹と相談し、永井事務局長に BMC の担当者らと ZL の今後についての会合のために 2 月 21 日から 25 日までの出張を依頼した。
2. 東レ科学振興会賞贈呈式に参加した。
3. 今年度の富山における動物学会大会の本部企画シンポジウムについて、関係者と協議した。
4. 同大会において学会の各種委員会の開催することを決定し、事務局長に各委員会の委員長である理事会メンバーへの連絡を指示した。
5. 同大会に発表するために入会する学生会員に対して、指導教員のサインをもらうこと、発表のためだけに入会して 1 年後に退会する場合は明記してもらうことを入会届に記入してもらうこととし、事務局から入会希望者に周知するよう、事務局に依頼した。
6. 会計理事・庶務理事と相談し、謝金支給規定案を作成した。
7. 事務局長に、国際生物学オリンピックと国際生物学賞に対する寄附を指示した（それぞれ 10 万円ずつ）。
8. 6 月 2 日に開催予定の第 6 回理事会について、開催通知を理事に送った。
9. 年度をまたぐ支部会計の運用について北海道支部より質問があり、本部役員で協議した上で、そのことについて通知した。なお、このことについては、第 6 回理事会で理事への報告を行うこととした。
10. 筑波大学稲葉教授より要望のあった「海洋生物応答研究拠点」の文科省への応募について、それを学会としてサポートする旨の文書を送付した。
11. 学会の出版するジャーナルについての分析を依頼する契約書を INLEXIO 社およびクラリベイト・アナリティクス・ジャパン株式会社と取り交わした。
12. 日本自然史学会連合の動物学会運営委員の役割を、後藤太一氏に継続して委任することとし、後藤氏にその旨依頼した。
13. 4 月 26 日に開催する第 5 回理事会について議題を本部役員で相談し、理事会メンバーに連絡した。
14. 5 月に開催される日本発生生物学会 50 周年特別企画に出席して、学会の法人化その他に関するパネルディスカッションに参加して欲しい旨の依頼を上野直人日本発生生物学会会長より依頼されていたが、その件について事務局長と話し合っ、相談した。

## ○ 副会長活動報告（2017年2月-4月）（筒井理事）

会長と各委員会の職務を補佐した。

○ 庶務担当理事および IT 委員会活動報告（2017 年 2 月-4 月）（吉田理事）

動物学会 Web の更新を行う事を目的に 2017 年 3 月 3 日（金）に阿部 IT 委員と共に Dynax 社との会合を行い、web 移行についての打合せを行った。

IT 委員会は、第 88 回日本動物学会富山大会の参加登録および演題登録システムは依頼先と密接に連絡をしながらシステム構築を行い、5 月の公開に向けて準備を行った。

○ 会計担当理事活動報告（2017 年 2 月-4 月）（志賀理事）

2 月

2 月 8 日 2016 年 12 月の収支計算書を確認した。

2 月 8 日 動物学会理事会事前会議に出席した

2 月 9 日 動物学会謝金規定（案）を作成し、理事会へ提出した

2 月 14 日 動物学会理事会 web 会議に出席した

3 月

3 月 3 日 2 月 14 日の理事会 web 会議の議論を元に動物学会謝金規定（案）を改訂し、最終案を理事会メンバーに提案し、承認された。

3 月 18 日 神戸理研で開催された Zoological Letter 編集会議およびシンポジウムに参加し、Zoological Letter の現状報告及び今後の編集方針をうかがった

4 月

4 月 26 日 動物学会理事会 web 会議に出席した

○ 賞等担当理事報告（2017 年 2 月-4 月）（竹井理事）

日本動物学会賞、奨励賞、教育賞、および OM 賞の応募が締め切られ、選考が開始された。

○ 広報理事及び広報委員会活動報告（2017 年 2-4 月）（浮穴理事）

**広報理事**

- 広報理事メール宛に届いた学会ホームページ掲載希望メールを整理・編集し、学会事務局へダイレクトメール配信依頼を行った（毎月）。
- 教員等公募情報、研究助成情報、研究集会情報、トピックス記事について、広報委員が

月当番で学会ホームページへ情報をアップする指示・確認を行った。最終的に、学会ホームページのトップページの TOPICS&NEWS 欄を更新した（毎月）。

- 第 88 回大会（富山） 第 2 回案内をトップページの TOPICS&NEWS 欄に掲載した（2 月）。
- Zool. Sci. 誌の最新号表紙を更新した（2 月）。
- 会員ダイレクトメールの編集（メールマガジン）に関し、1 月までの方法・内容を再検討した。
- メールマガジンの編集を前月までのダイレクトメールの要点を記す方法へ変更することにした（4 月）。

#### 広報委員会

- 月当番にて教員等公募情報、研究助成、研究集会、トピックス記事について、学会ホームページへ情報をアップし、それを広報理事に知らせた。
- 2 月分：東北支部・松岡有樹（福島医大）担当
- 3 月分：関東支部・沓掛磨也子（産総研）担当
- 4 月分：広報理事・浮穴和義（広島大）担当

#### ○ZS 編集主幹報告（2017 年 2-4 月）（深津理事）

Zoological Science Volume 34 Issue 1 (Feb 2017): 1 Essay, 1 Review, 9 Articles

Zoological Science Volume 34 Issue 2 (Apr 2017): 11 Articles

を発行した。

#### ○男女共同参画理事および委員会活動報告（2017 年 2-4 月）（豊田理事）

・ 3 月上旬～4 月継続中

将来計画委員会の渡辺明彦先生、キャリアパス小委員会委員長の石原顕紀先生とキャリアパスに関する意識調査（アンケート）を将来計画委員会と男女共同参画委員会が共同して実施に向けて具体的な方法などについて意見交換を行ってきた。

・ 3 月 21 日 日本動物学会第 88 回富山大会における第 16 回男女共同参画懇談会について下記内容の企画書を大会本部へ提出した。

ランチョン企画：ワーク・ライフ・バランスを考える～研究に集中できる環境づくりとは～  
プログラム：1) 大規模アンケートの解析結果について概説し、2) 昨年と同様に、参加者が「キャリアパス、共働き・単身赴任、育児、介護」の 4 つのテーマ別に分かれてグループディスカッションを行う。

・3月30日 第15期第1回学協会連絡会運営委員会(12月13日)に第8期男女共同参画委員会から2名が出席した。また Gender Summit10 (GS10, 2017/5/25-26、一橋講堂)への1名の参加手続きを行った。

#### ○国際交流担当理事及び委員会活動報告 (2017年2-4月) (安東理事)

1. 第4回動物学国際交流セミナーについて審議した(メール審議、4/14-24)。第88回日本動物学会大会の松田恒平実行委員長から動物学国際交流セミナーの企画案が提出され、審議の結果、動物学国際交流セミナーとして開催することについて承認した。但し、日程を大会と連動させることが難しいとのことなので、なるべく多くの会員が参加できるように周知することを条件とした。

#### ○出版・図書担当理事及び委員会活動報告 (2017年2-4月) (松田理事)

1. Springerのシリーズ出版(Diversity and Commonality in Animals)に関するものと丸善出版の動物学百科事典出版に関するもの

現在、昨年8-10月期と11月-本年1月期にご報告したとおり、各号の出版あるいは原稿収集について進めているところである。

2. SpringerのAnimal Diversity and Commonalityについては、6巻以降につき、新しい領域やテーマの企画を立てふさわしいVolume Editor(s)に依頼するか、学会会員に編集担当希望のVolume企画を募ることを立案中である。

#### ○教育担当理事及び委員会活動報告 (2017年2-4月) (勝理事)

- ・2017年1月23日に九州支部の岡田委員(長崎大学)から九州支部の活動報告を受けました。2月2日にその活動内容を各支部の教育担当委員の先生方に送り情報を共有しました。
- ・2017年3月9日に中部支部の後藤委員(三重大学)から中部支部の活動報告を受けました。その活動内容を各支部の教育担当委員の先生方に送り情報を共有しました。
- ・2017年4月1日に、各支部の支部長に教育委員の業務ご協力をお願いをしました。
- ・2017年4月1日に、各支部の教育担当委員に平成29年度の教育関係企画(予定)の報告をお願いしました。
  
- ・2017年4月5日に東北支部の経塚委員(東北大学)から東北支部の活動報告を受けました(平成28年度の活動報告と平成29年度の活動計画)。4月10日にその内容を各支

部の教育担当委員の先生方に送り情報を共有しました。

○将来計画担当理事および委員会報告(2017年2-4月)(渡辺担当理事)

- 1、 2月の理事会での承認を受けて、キャリアパス問題に関するアンケート調査の実施に向けて、豊田ふみよ会員(男女共同参画担当理事)と石原顕紀会員(キャリアパス小委員会委員長)と意見交換を行った。
- 2、 キャリアパス小委員会のメール会議において、アンケート調査の実施に向けてのフリートークに参加した。

○渉外・寄付担当理事および書記活動報告(2017年2-4月)(小金澤理事)

- ・2017年2月14日開催の平成28年度第4回日本動物学会理事会(Web会議)に出席した。理事会議事録の原資料作成のため会話録音を行った。
- ・第4回理事会にて録音されたデータからテープ起こしを行い、「日本動物学会第4回理事会メモ」としてまとめた。

○ZDW担当理事活動報告(2017年2-4月)(広瀬理事)

・2月2日に ZDW 委員会を開催し、以下について報告・審議を行った。詳細については議事要旨を請求いただきたい。また、3,4については次回理事会で報告したい

1. ZDW の概要と現在の進捗状況
2. 現在の ZDW における表示の不具合や追加・修正 (後日ダイナックスへ修正依頼を行った)
3. Virtual issue の企画編集について
4. 今後、Zoological Letters、動物学雑誌および動物学彙報の掲載論文も ZDW に収録する可能性について

・当面、ZDW 委員会が virtual issue の企画・編集を行うことについて、会長の承認を受け、会長を通して ZS と ZL の両編集主幹にも了承を得た。

・ virtual issue の企画編集に関する取り決めについて、ZDW 委員会で検討を開始した(メール会議)

○北海道支部活動報告(2017年2-4月)(松島理事)

今期、北海道支部は3回の支部講演会を実施した。また4月21日（金）15時より北大理学部5号館1110号室にて、第89回日本動物学会大会（大会長：山下正兼）の準備会を開催した。参加者は札幌コンベンションセンター（コンベンションリンクージ）より寺山・武部、準備委員会より山下、小川、松島、勝、増田。

#### 1. 北海道支部講演会

##### (ア) 第570回支部講演会

- ① 平成29年2月20日17:00~
- ② 北海道大学理学部5号館813号室
- ③ 演者：設楽 久志（慶應義塾大学大学院 基礎理工学専攻）
- ④ 演題：cGMPイメージングによる線虫嗅覚神経細胞AWCの部位特異的応答

##### (イ) 第571回支部講演会

- ① 平成29年4月13日17:00~
- ② 北海道大学理学部5号館813号室
- ③ 演者：網田英敏（Laboratory of Sensorimotor Research, National Institute of Health, Maryland USA）
- ④ 演題：なぜ好きなものに目がいくのか？ Basal ganglia guide saccadic eye movement to historically good objects

##### (ウ) 第572回支部講演会

- ① 平成29年4月25日17:30~
- ② 旭川医科大学教育研究推進センター3階カンファレンスルーム
- ③ 演者：石島純夫（東京工業大学生命理工学院）
- ④ 演題：微小管の滑りによる精子鞭毛の運動機構とその制御

#### ○東北支部活動報告(2-4月) (渡辺理事)

- 1、高等学校と支部との継続についてメール会議を継続しており、高校生の探求活動と理科教員の研修の支援について意見交換を行った。
- 2、平成29年度東北支部会の実施に関して、協賛企業の募集について準備委員会と調整を行った。
- 3、平成29年度フォトコンテストのポスターを作成し、支部会員と浅虫水族館、加茂水族館に送付し、掲示を依頼した。
- 4、東北支部だより No.60 を支部会員に配布した。



○関東支部活動報告(2017年2-4月)(阿形理事)

2017年2月24日(金)18時から早稲田大学先端生命医科学センター(TWINs)にて、  
関東支部委員会を開催し、主に関東支部大会準備について審議した。

出席者: 谷口、神田、田中、吉田薫、筒井、赤染、小柴、加藤、沓掛、兵藤、岡

2. 2017年3月20日(月・祝日)に以下の要領で第69回関東支部大会を開催した。

東京キャンパス 134室(文京区大塚 3-29-1)

日時:2017年3月20日(月・祝日)

会場:筑波大学・東京キャンパス文京校舎・

-----  
プログラム

9:30- 受付開始・ポスター掲示

10:00-12:00 公開シンポジウム(1階134講義室)

12:10-13:00 総会(1階134講義室)

13:00-14:00 昼休み

14:00-16:00 ポスター発表(1階122講義室 予備:1階116-118講義室)

17:30-19:00 懇親会(お茶の水大学生協[ <http://www.ocha.ac.jp/help/accessmap.html> ])

公開シンポジウム

「生殖細胞に秘められたパワーを解く」

1、はじめに

--永遠の命を持つ生殖細胞の不思議--

筑波大学・TARAセンター 小林悟

2、試験管内で機能的な生殖細胞をつくる

--試験管内で世代交代はできるのか?--

九州大学・医学研究院 林克彦

3、生殖細胞を借り腹でつくる

--マグロを絶滅から救えるのか?--

東京海洋大学・大学院海洋科学技術研究科 吉崎悟朗

-----  
公開シンポジウムには、一般参加 207名・高校生参加 84名、合計 291名の参加があった。

総会は 12時15分～13時00分にかけて以下の内容で開催した。

-----  
議事に先立ち、議長として稲葉一男会員が選出された。

日野議長により、総会の開会が宣言された。

1.第 69 回支部大会長挨拶 本支部大会長の沼田治会員(筑波大学大学院 生命環境科学研究科)より挨拶があった。筑波大学との共催により滞りなく進行中であり、準備委員の活躍を称えた。

2.支部長挨拶 阿形清和支部長より挨拶があり、大会準備委員、支部委員への御礼があった。なお一層の活動の活性化をはかりたい旨が述べられた。

3.会長挨拶 岡良隆会長より挨拶があった。大会準備委員、支部委員への御礼があった。本支部大会の盛況について触れられた。さらに、*Zoological Letters* が順調に発行されていることが紹介され、ZL の広報のために理研 CDB で国際シンポジウムも行われたことが紹介された。

<報告事項> 4.庶務報告 神田真司庶務委員より、会員異動について報告があった。また、2015 年度および 2016 年度 中間の活動状況について報告があり、了承された。

5.会計報告 小柴和子会計委員より、2015 年度 支部活動費決算報告があった。また、2016 年度の支部 活動費執行状況の中間報告があり、了承された。会費の納入、および会員の勧誘に関して、お願いがあった。

<審議事項> 6.活動計画 神田庶務委員より、2017 年度の活動計画が提案され、承認された。

7.支部活動費決算の承認と支出計画 小柴会計委員より、2015 年度 支部活動費についての会計監査結果が示され、承認された。また、2017 年度の支部活動費支出計画が提案され、承認された。

8.監査委員の選出 2017 年度～2018 年度の監査委員について、松本緑会員(慶應義塾大学理工学部)、箕浦高子会員(中央大学理工学部)の 2 名を推挙することが提案され、承認された。

<各種案内> 9.公開講演会 赤染委員より案内があった。2017 年 7 月 22 日(13 時～)東京大学理学部二号館 4 階講堂 において開催される。メインテーマ:「塗り替えられる動物の進化の歴史」。

10.第 88 回日本動物学会年会合同大会 岡会長より案内があった。2017 年 9 月 21 日～23 日、富山大学で開催される。本部企画として、米国の元動物学会である SICB の会員を中心とした講演者を招待し、国際シンポジウムを実施予定なので、総会共々多くの会員の参加をお願いしたい。

11.第 70 回支部大会長挨拶 次期大会長となる安増茂樹会員(上智大学)より挨拶があった。次回の支部大会は上智大学 四ッ谷キャンパスで 2018 年 3 月に開催される予定である。正確な日程は未定。

稲葉議長により閉会が宣言された。

#### ○中部支部活動報告 (2017 年 2-4 月) (浅見理事)

1. 第 88 回 (平成 29 年) 日本動物学会大会 (全国大会) の準備委員会 (平成 29 年 3 月ま

でに5回開催)を、平成29年度の開始に伴い4月から実行委員会(委員長・松田恒平)に改称した。4月21日に、準備委員会と同一の委員による1回目の実行委員会を開催した。これらの会議と平行して、インターネット遠隔会議およびメイリングリストで議論をしつつ、全国大会の準備を進めた。5月8日にオンライン参加・演題登録システムを公開し、参加・演題登録を可能にした。プログラム編集会議の日程を調整中である。

2. 平成29年度中部支部大会:岐阜大学の岩澤淳会員が中心となり、平成29年12月の開催の準備を進めた。

#### ○近畿支部活動報告(2017年2-4月)(西田理事)

1. 平成29年度近畿支部会の実施に関して、連絡調整を行った。
2. 2019年動物学会大会を近畿で行うように依頼されていた。各方面と協議の結果、以下のように概要を決定した。

##### 準備委員

寺北が準備委員長として大阪市立大学で開催する

##### 日程

2019年9月12日(木)～14日(土)

##### 会場

12日と14日

大阪市立大学杉本キャンパス(大阪市住吉区、最寄り駅はJR杉本町、地下鉄あびこ)

13日

大阪国際交流センター(大阪市天王寺区、最寄り駅は地下鉄谷町九丁目、近鉄上本町)の予定で現在進めています。

懇親会(13日):シェラトン都ホテル大阪(地下鉄谷町九丁目、近鉄上本町駅前、国際交流センターから徒歩10分程度(700m))

#### ○中国四国支部活動報告(2017年2-4月)(植木理事)

今期は、支部の各県における活動情報の収集と、主な役員に対する理事会の報告と今後の対応の検討、支部大会の準備を行った。各県における活動は、以下の通りである。

名称:山口大学理学部サイエンスワールド2016～科学ミステリーの世界へようこそ～

日時:平成28年11月6日(日)10:00～17:00

場所:山口大学吉田キャンパス 第2学生食堂、大学会館等

演題数:企画展示ブース12件、博物館展示ブース1件、科学アトラクション7研究室

参加者：来場者 1056 名、主催者側 約 110 名

名称：愛媛県例会

日時：平成 28 年 12 月 10 日（土）13：00～15：30

場所：愛媛県松山市 愛媛大学理学部本館 共通ゼミ室（529）

演題数：7 件

参加者：約 30 名

名称：岡山県例会

日時：平成 28 年 12 月 16 日

場所：岡山大学理学部第 2 講義室

演題数：1

参加者：約 45 名

名称：土佐生物学会第 109 回大会

日時：平成 28 年 12 月 17 日（土）9 時 30 分～16 時 30 分

場所：高知県高知市曙町 2-5-1 高知大学理学部情報科学棟 1 階共通講義室 4

演題数：口頭発表 15 件，ポスター発表 12 件

参加者：77 名

名称：広島県例会

日時：平成 29 年 3 月 9 日（木）13 時 00 分～16 時 00 分

場所：広島県東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院理学研究科 E 棟 大会議室（E203）

演題数：ポスター発表 25 件

参加者：37 名

#### ○九州支部活動報告（2017 年 2-4 月）（飯田理事）

- 1) 三学会合同大分大会（5 月 27、28 日）における総会準備、平成 29 年度の支部会計報告等の準備
- 2) 中国四国地区・九州地区合同研修会（平成 29 年 9 月 2、3 日、下関市火の山ユースホステル）の準備、打ち合わせ

## ZooDiversity Web (ZDW) 委員会 報告

1. ZDWは動物の学名や普通名でZSに掲載された論文を検索できるデータベースで、ZSの国際的な引用向上に役立つことを目指しています。
2. ZDWでは2004年以前にZSに掲載されたすべての論文がダウンロードできる上、会員やZS購読契約している図書館からは最新号を含むすべての論文がダウンロードできます。
3. ZDWは動物学会が採択されている科研費（研究成果公開促進費 国際情報発信強化 B：今年度まで）によって運営されています。

### <報告>

#### Virtual Issue の企画編集について

ZDWではZSに掲載された論文から特定のトピックで編集したvirtual issueを掲載している。

<http://zdw.zoology.or.jp/VirtualIssue>

今後、ZL、動物学雑誌、動物学彙報の論文も対象として、年に3-4のvirtual issueを出したい。

当面はZDW委員会がvirtual issueの企画・編集を担当し、ZDWが軌道に乗った段階で会員を対象に virtual issue editorを公募する形への移行を目指している。

### <審議依頼>

#### ZDWに動物学雑誌、彙報も取り込むための科研費申請

ZDWはZSの論文を対象としたデータベースであるが、すでにZLの論文も検索対象とする作業をはじめている。

次のステップとして、動物学雑誌と彙報もデータベースに取り込みたいが、このためには新たに予算が必要。

このため、改めて動物学会が 国際情報発信強化B あるいは データベース の種目で研究成果公開促進費に応募することを検討いただきたい。

応募する場合、どちらの種目とするかは会長およびZDW委員会に委任いただきたい。

## ZDW virtual issueについて

ZS, ZL, 動物学雑誌, 動物学彙報に掲載された論文から、**issue editor**が設定したトピックに基づいて選択した論文（総説）を集めた**virtual issue**を作成し、ZDW上で公開する。

**virtual issue**に収録された論文の中、2005年以降に掲載されたZSの論文以外は、**free download**となる（ZLの論文はZLのサイトへリンク）。また、会員は2005年以降に掲載されたZSの論文もダウンロードが可能である。

**issue editor**は原則として会員とする。複数名の会員が協力して1つの**issue editor**を担当しても良い。

当面、ZDW委員会が**virtual issue**の企画・編集を行い、年に3-4件程度をZDW上で発行する。将来的には**issue editor**は会員対象に公募し、ZDW委員会で企画を選考するようにしたい。

**virtual issue**の柔軟性を活用し、**issue**の掲載後も、**issue editor**の責任で論文の追加や**preface**の改訂など**update**を可能とする。

**virtual issue**は原則として以下の構成とする（具体的には既存の**virtual issue**を参照）

- ・表紙（図、写真）：originalの図・写真が良いが、論文内の図でも雑誌の表紙でも可（**issue editor**が提案）
- ・Preface（**issue editor**が執筆）
- ・幾つかのChapterを設定し、各Chapter内に例えば3-6編ぐらい（数は自由）を収録。



Toshiya Matsushima さん (第4回動物学 × 会理事会)

本郷からまったく音声が届いておりません。ご確認を。

okay.ut@gmail.com

理事会開催をお願いするにもかかわらず、同時接続の 制約のために何人かの先  
 お願いすることになり、誠に申し訳ありませんが、よろしくお願い致します。

